

日本教育方法学会

第58回大会プログラム

前日 9月30日 (金)	18:00	全国理事会 (セントコア山口)
	19:30	

第 一 日 10月1日 (土)	9:00	課題研究Ⅰ 教育方法学者はなぜ授業を研究するのか －教育方法学における知のありかた－				課題研究Ⅱ 高校における主権者教育をつくる －実践の継承・発展に教育方法学研究は何かできるのか－			
	11:15								
	11:30								
	12:20	総 会							
	13:00	休 憩							
	15:40	自由研究 1	自由研究 2	自由研究 3	自由研究 4	自由研究 5	自由研究 6	自由研究 7	自由研究 8
	16:00	休 憩							
	18:30	シンポジウム 学校・学級で学ぶことの意味を問う							

第 二 日 10月2日 (日)	9:00	自由研究 9	自由研究 10	自由研究 11	自由研究 12	自由研究 13	自由研究 14	自由研究 15	自由研究 16
	11:40	休 憩							
	13:00	課題研究Ⅲ 幼児期の遊びから児童期の学びへの接続を問う －架け橋期カリキュラムと教育方法－				課題研究Ⅳ 教員養成において教育方法を学ぶ意義 －教職課程コアカリキュラムとICT事項科目への対応をめぐる－			
	15:15	休 憩							
	15:30	ラウンド テーブル ①	ラウンド テーブル ②	ラウンド テーブル ③	ラウンド テーブル ④	ラウンド テーブル ⑤	ラウンド テーブル ⑥	ワーク ショップ ①	
	17:00								

2022年10月 1日(土)・10月 2日(日)
於 山口大学

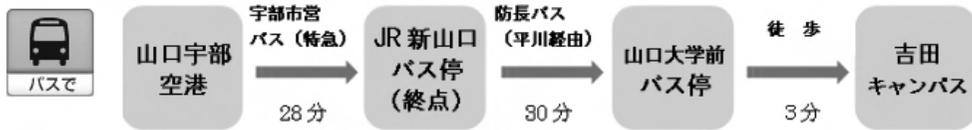
大会参加要領

- 1. 会場案内：**2022年度第58回山口大学大会は、全プログラムを対面・オンラインでのハイフレックスにて開催いたします。ハイフレックスの開催にあたり、Zoomというオンライン会議システムを利用いたします。「日本教育方法学会第58回山口大学大会オンライン会場」を、オンライン上の学会大会の開催会場といたします。大会期間中は、山口大学あるいは、それぞれのオンライン環境にて学会にご参加ください。
- 2. 参加申込：**学会 HP より、9月15日までに事前申し込みをしてください。
 - ・学会 HP： <https://www.nasem.jp/58th-meeting/>
 - ・日本教育方法学会 HP「第58回大会」「大会参加申し込み」ページより必要事項を入力いただき、大会参加費をお支払いください。
 - ・受付期間は、8月29日(月)～9月15日(木)です。
 - ・大会参加費（『大会発表要旨』代を含む）は、一般会員4,000円、学生会員3,000円です。
 - ・当日会員（臨時会員）もこれに準じて受け付けております。
 - ・大会参加費は、ゆうちょ銀行への口座振込にて受け付けております。
口座名：日本教育方法学会
口座番号：01340-0-3467
※通信欄に「第58回大会参加費」とご記入ください。
- 3. 大会参加のためのご案内：**上記の大会参加申込をしてくださった方に、9月28日(水)以降に
 - ・『大会発表要旨』
 - ・対面参加用の名札
 - ・「日本教育方法学会第58回山口大学大会オンライン会場」に入るためのパスワード
をお届けいたします。
- 4. 昼 食：**大学内食堂（土曜日は11:00～14:00、日曜日は11:30～13:00）で営業しております。
- 5. 研究発表：**
 - ・自由研究の発表時間は以下の通りです。
個人研究：発表20分 質疑10分
共同研究：発表30分 質疑10分
（但し、口頭発表者が1名の場合は個人研究に準じます。）
 - ・自由研究における共同研究発表者の氏名にある○印は、口頭発表者を表しています。
 - ・発表資料は9月27日(火)到着分までは「日本教育方法学会第58回山口大学大会オンライン会場」に掲載いたします。
 - ・発表資料は、発表者各自でZoomの「画面共有」機能を利用してご提示いただけます。発表資料はZoomのチャット機能を用いてデータ送信していただけます。
- 6. 全国理事会：**対面とオンラインでのハイフレックス開催です。
 - ・理事には、別途、「2022年度全国理事会オンライン会場」のZoomのURLとパスワードをお送りいたします。
- 7. 総 会：**対面とオンラインでのハイフレックス開催です。
 - ・主な議題：会務報告、2021年度決算、2023年度予算案、次期大会校
- 8. 会員懇親会：**第58回大会では会員懇親会は開催いたしません。
- 9. 『教育方法51』：**本年度の学会費を納入された方には、『教育方法51』を郵送いたします。
- 10. 無線LAN：**山口大学ではeduroamをご利用いただけます。
eduroamをご利用いただけない大会参加者をご自身でオンラインに接続できる準備をしてください。

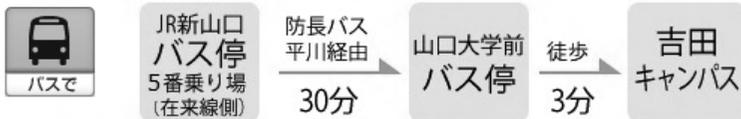
〈交通手段のご案内〉

〈山口大学吉田キャンパス（〒753-8511 山口県山口市吉田1677-1）へのアクセス〉

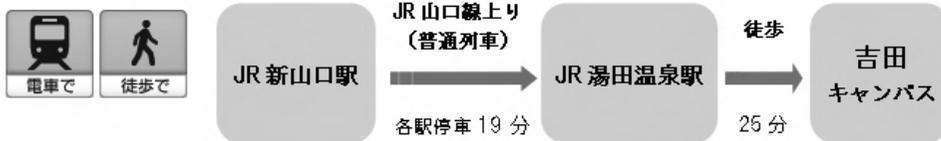
● 宇部空港をご利用の方



● JR・バスをご利用の方



※他のルートもありますが乗り換えが必要です。



吉田キャンパスへのアクセスについては、大学のHPをご覧ください。

<http://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/13/616.html>

大学近辺では以下のタクシー会社をご利用いただけます。

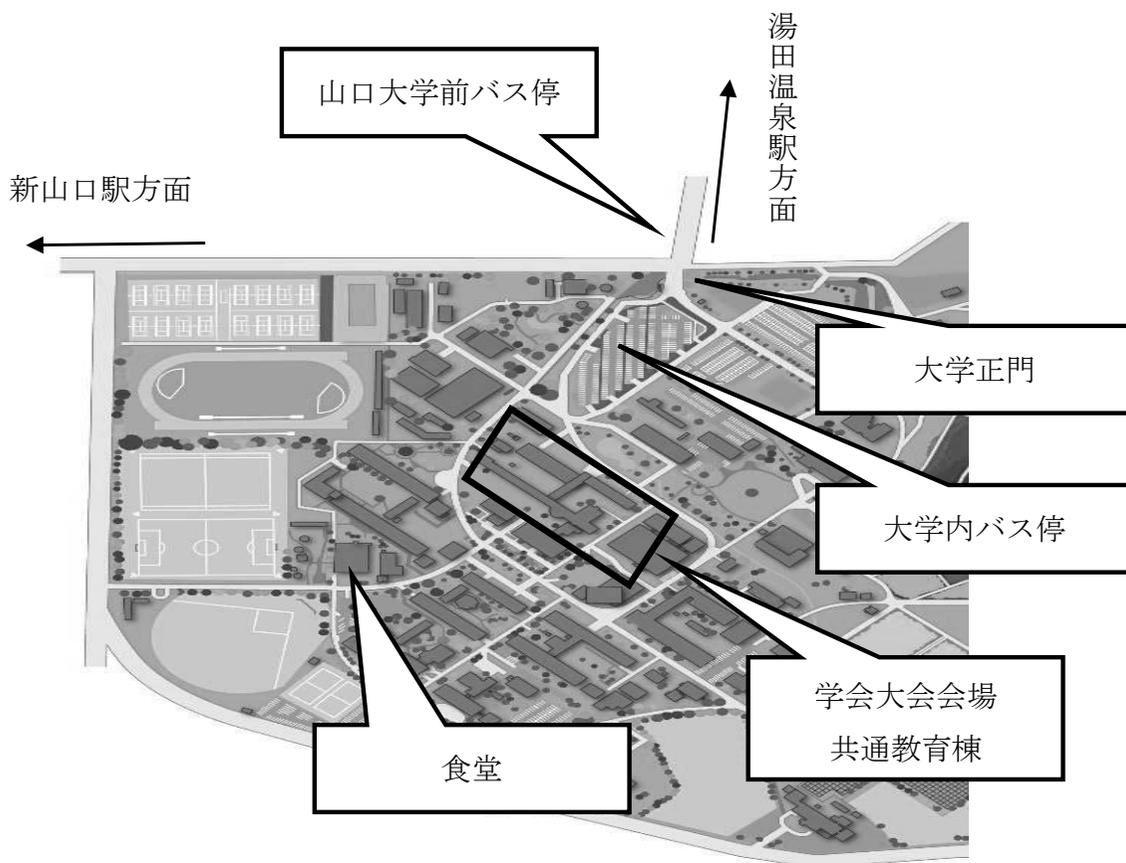
- ・いさむや第一交通 0120-391-368
- ・大隈タクシー 083-922-0860
- ・中司タクシー 083-922-0812
- ・湯田都タクシー 0120-710-120

湯田温泉駅ー山口大学間は約10分（770円程度）です。

〈大学周辺地図〉



〈会場配置図〉



会場配置

総会：1 番教室
シンポジウム：1 番教室
課題研究Ⅰ：1 番教室
課題研究Ⅱ：2 番教室
課題研究Ⅲ：1 番教室
課題研究Ⅳ：2 番教室
自由研究 1・9：メディア講義室
自由研究 2・10：2 番教室
自由研究 3・11：3 番教室
自由研究 4・12：26 番教室
自由研究 5・13：27 番教室
自由研究 6・14：28 番教室
自由研究 7・15：31 番教室
自由研究 8・16：32 番教室

ラウンドテーブル①：11 番教室
ラウンドテーブル②：22 番教室
ラウンドテーブル③：23 番教室
ラウンドテーブル④：24 番教室
ラウンドテーブル⑤：25 番教室
ラウンドテーブル⑥：26 番教室
ワークショップ①：3 番教室

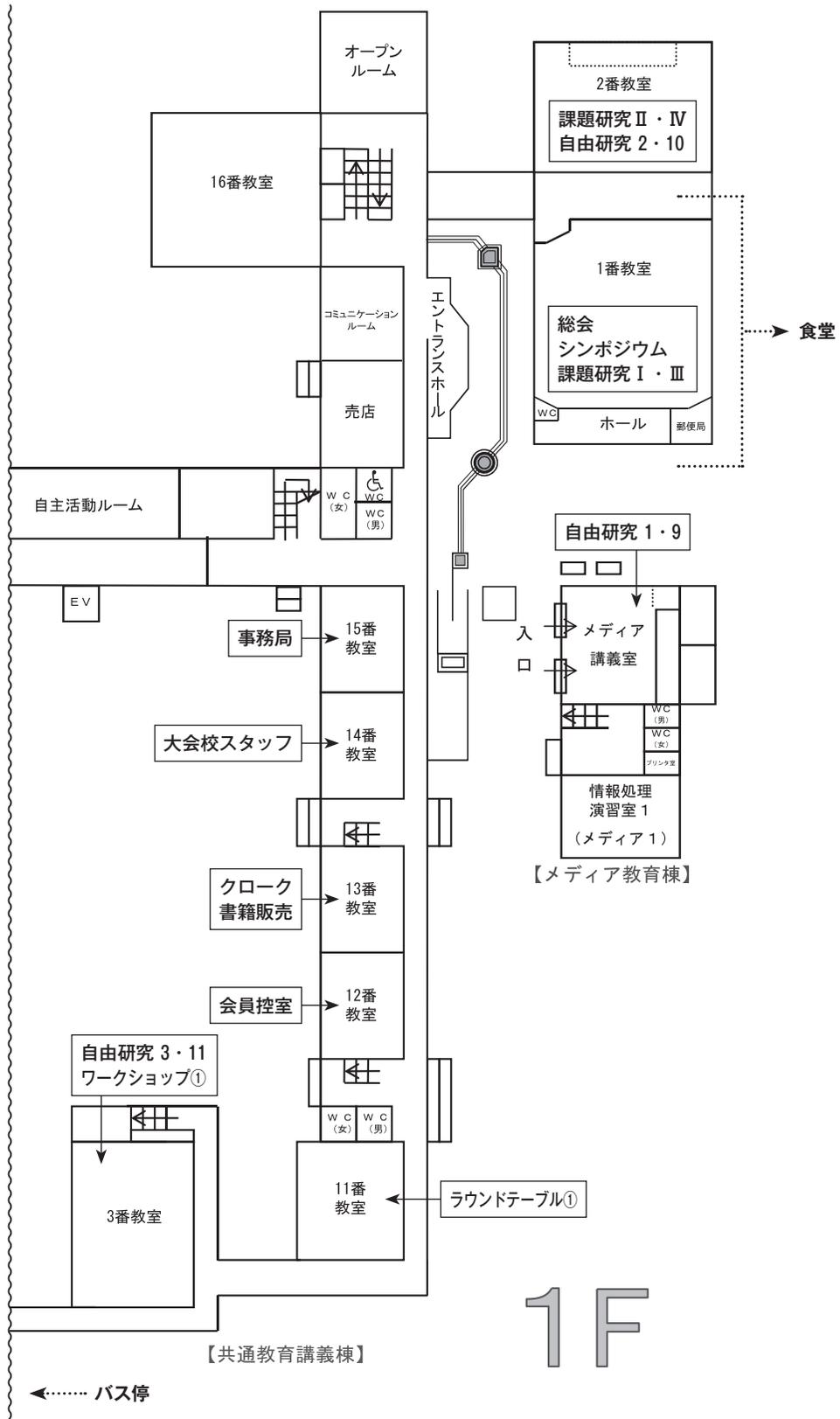
会員控室：12 番教室

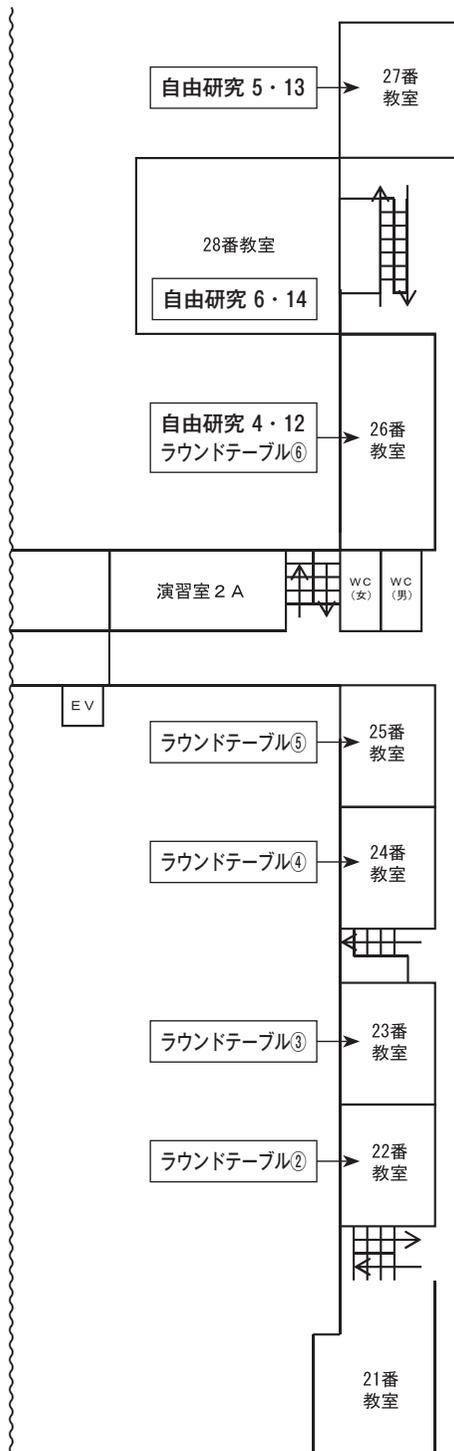
クローク・書籍販売：13 番教室

大会校スタッフ：14 番教室

事務局：15 番教室

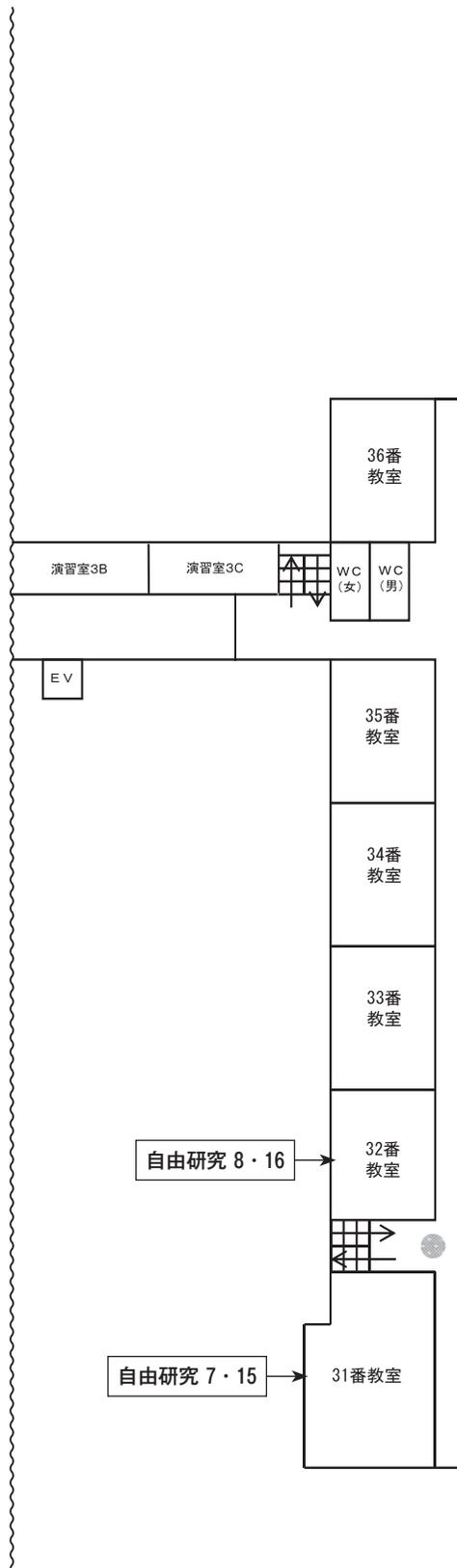
〈共通教育講義棟等の配置図〉





【共通教育講義棟】

2F



【共通教育講義棟】

3F

10月1日(土) 9:00~11:15

課題研究 I

教育方法学者はなぜ授業を研究するのか
— 教育方法学における知のありかた —

(1 番教室)

コーディネーター・司会者

草原 和博 (広島大学)

藤江 康彦 (東京大学)

提案者

川口 広美 (広島大学) 「指導助言」に見られる教師教育者のスタンスの特質

坂本 将暢 (名古屋大学) 教育の科学化を志向した授業記録とのオープンエンドな対話
—なぜ授業記録を使って分析をするのか—

〈設定趣旨〉

教育方法学者にとって、授業研究はどのような営みなのであろうか。授業研究は、教育に関する理論の構築、カリキュラムや授業の評価と改善、教師の学習契機の創出、を目的として営まれる。その営みにおける授業実践との対峙のしかた、実践を研究活動の素材とするための授業記録の様式や活動における位置づけ、その記録から創出される知のありかたもまた、目的に応じて多様でありうる。さらに、それらの知への向きあいかたに応じて、科学的思想的な理論構築を志向する教育学研究と、実践の評価や改善、教師の学習や発達すなわち、教師教育を志向する教育実践研究という区分が立ち上がってくる。このように教育学研究と教育実践研究との境界と関係を設定した場合、教育方法学者の授業研究という営為はどのように定位させることができるだろうか。上述のような伝統的な二分法の枠に収束できるものだろうか。本課題研究では、教育方法学者が「なぜ」授業研究に取り組むのかを問い、研究実践における授業研究の位置づけ、そしてそこから創出される知のありかたを探究する。

10月1日(土) 9:00~11:15

課題研究Ⅱ

高校における主権者教育をつくる

— 実践の継承・発展に教育方法学研究は何ができるのか —

(2番教室)

コーディネーター・司会者

大野 栄三 (北海道大学)

白石 陽一 (熊本大学)

提案者

浦崎 勇一 (熊本学園大学付属高校) 主権者=権利を行使できる主体であることが分かるためには
— 社会事象を自分事にするための視点と方法 —

榎原 佳江 (大阪府立緑風冠高校) はじめての公共

— リアルな選挙から社会を学ぶ —

佐藤 功 (大阪大学) だれのための主権者教育, だれのための18歳成人
— 現場の教員ができること, 現場の教員だからできること —

〈設定趣旨〉

高校では新たな必修科目「公共」が始まり、主権者教育の在り方が注目されている。背景には成人年齢が18歳に引き下げられたことがある。18歳になると、クレジットカードが作れるようになり、ローンを組むことができる。選挙権をもち、国民投票に参加できるようにもなる。こうした現実には高校生はどう向き合い、教師はどのような授業を実践すればよいのか。ファイナンスやキャッシュレス時代のお金の使い方を教えろ、一票の重みを考えて投票に行くように説けといった具合に対症療法をおこなって済むものではない。

戦後、社会科、地歴、公民の教科教育で、社会づくりに参加できる人を育てる教育として、主権者教育の実践が探求されてきた。一方で、口実やたてまえと化した「教育の政治的中立性」が、学校現場の主権者教育を萎縮させてもきた。そして21世紀に、私たちは民主主義が衰退していく世界情勢に直面している。本課題研究では、このような状況に対して、教育方法学研究は何ができるのかを検討したい。前半は、提案者から主権者教育の実践とその成果の継承・発展について報告していただく。後半は教育方法学研究ができること、役割は何かについて参加会員と議論する。

10月1日(土) 13:00~15:40

自由研究1

(メディア講義室)

司会者：折出 健二 (愛知教育大学名誉教授)
富士原 紀絵 (お茶の水女子大学)

- 13:00 ① 宮坂哲文の生活指導論における生活綴方理解に関する一考察
○澤田 百花 (広島大学大学院・院生)
- 13:30 ② 斎藤喜博における「演出」概念の検討
○園部 友里恵 (三重大学)
- 14:00 ③ 芦田恵之助の「修養」再考
○齋藤 智哉 (國學院大學)
- 14:30 ④ 上田薫における教師の人間理解に関する一考察
ーカルテの方法に着目してー
○杉本 憲子 (茨城大学)
- 15:00 ⑤ 城丸章夫の「学習の総合化」論の検討
ー教科指導における「学習の総合化」にむけてー
○中村 清二 (大東文化大学)

自由研究2

(2番教室)

司会者：佐久間 亜紀 (慶應義塾大学)
山田 綾 (四天王寺大学)

- 13:00 ① 公害教育運動における教師ー患者の関わり
ー水俣芦北公害サークルの「運転手」としての役割に着目してー
○佐野 良介 (東京大学大学院・院生)
- 13:30 ② 小学校入学に向けた保護者の安心感をつくる一考察
ー新入学児童保護者説明会資料と情報発信の工夫ー
○齋藤 嘉一 (相模原市立九沢小学校)
福島 健介 (帝京大学)
- 14:00 ③ ケアを視点とした学習集団論の再編に関する一考察
○阿蘇 真早子 (広島大学大学院・院生)
- 14:30 ④ 防災教育の教育方法に関する一考察
ー学校避難訓練の可視化による改善を通してー
○長島 康雄 (東北学院大学)
- 15:00 ⑤ 「ケアする学校」としての中学校のあり方
ー教育相談部会システムを基盤とした学校運営の可能性ー
○藤川 大祐 (千葉大学)

自由研究3

(3番教室)

司会者：阿部 昇(秋田大学名誉教授)
小柳 和喜雄(関西大学)

- 13:00 ① 操作活動による概念形成の成立要因
—算数科「量の学習」を通して—
○中島 淑子(愛知文教大学)
- 13:30 ② 国定教科書(第2期版)の使用時期における分数除法の計算規則の成立を示す説明
—実践的研究の動向に見る,その論理と特徴—
○岡野 勉(新潟大学)
- 14:00 ③ 物語の授業における生徒の教材解釈と相互理解の可能性Ⅱ
—『ハックルベリー・フィンの冒険』の感想分析による—
○中道 豊彦(愛知県立半田高等学校)
- 14:30 ④ 小学校音楽科における和音の学習に関する事例研究
—「多様な音楽」を視野に入れた教育方法の開発に向けて—
○森 薫(埼玉大学)
- 15:00 ⑤ 中学校英語科における辞書引き学習実践に関する研究
—ヨーロッパ言語共通参照枠の理念に対応した汎用的な自己調整学習の実践・検証—
○深谷 圭助(中部大学)

自由研究4

(26番教室)

司会者：金馬 国晴(横浜国立大学)
田代 高章(岩手大学)

- 13:00 ① 対話型論証を取り入れた高校の探究学習における生徒の学びの実態
—探究学習終了後の高校生への調査をもとにして—
○田中 孝平(京都大学大学院・院生)
日本学術振興会特別研究員
- 13:30 ② 「探究的な学び」の本質
—アメリカにおける科学教育政策を事例として—
○応 瑞琦(東京大学大学院・院生)
- 14:00 ③ 「総合的な学習の時間」の成果と「総合的な探究の時間」の在り方
—定量・定性融合法を通して—
○鈴木 貴人(福島大学教職大学院・院生)
- 14:30 ④ 高等学校数学科における探究的な学びを実現するためのカリキュラム改革
—隠岐島前高校における魅力化に向けた普通科再編の途上で—
○松尾 奈美(島根大学)
○宮本 勇一(広島大学)

自由研究5

(27番教室)

司会者：石井英真(京大)
藤井啓之(日福大)

- 13:00 ① 特別支援教育における「複数教師による指導」の成立
ー東京都における介助員制度を契機としてー
○立石力斗(九州大大学院・院生)
- 13:30 ② 定時制高校における授業実践の「ふまじめ」性の検討
○伊藤晃一(千葉大大学院・院生)
- 14:00 ③ 「歌われない英雄」としての教師の仕事、「高度な平凡性」としての指導の技術
ーもっとも基本的な指導方法を喪わないための試みー
○白石陽一(熊本大)
- 14:30 ④ 教師教育者(志望者)はどのような専門性開発を期待しているか
ー広島大EVRIのPD講座参加者の場合ー
○大坂遊(周南公立大)
○草原和博(広島大)

自由研究6

(28番教室)

司会者：北田佳子(埼玉大)
田端健人(宮城教育大)

- 13:00 ① 小学校社会科の単元展開における教師の実践的思考の研究
ー教師にとって「都合の悪い子ども」を契機としてー
○坂井清隆(福岡教育大)
- 13:30 ② ヴァン=マーネンの現象学的教育学の構造と生きられた経験の記述・分析に関する一考察
○藤原由佳(広島大大学院・院生)
- 14:00 ③ 教材-子ども-教師のアッサンブラージュの生成変化
ーカレン・バラッドの主体実在論から教育実践を問い直すー
○楠見友輔(日本学術振興会特別研究員)
- 14:30 ④ 現象学的教育学に基づく授業研究モデルの開発
○宮原順寛(北海道教育大)
- 15:00 ⑤ 授業研究の研究動向に関する考察
ー1990年から2021年に学術雑誌に掲載された論文のレビューからー
○木原俊行(大阪教育大)
島田希(大阪公立大)

10月1日(土) 13:00~15:40

自由研究7

(31番教室)

司会者：西岡加名恵(京大)
湯浅恭正(広島都市学大)

- 13:00 ① 子どもはコミュニケーションをとおしてどのように学ぶか
ー学校における音楽の学びの形成を目指した諸理論の整理ー
○武島千明(広島大学大学院・院生)
- 13:30 ② 2つの学習論から創造する教室空間
ー自己調整学習とイェナプラン教育からの実験的实践と検証ー
○武山幸一郎(宮城教育大学教職大学院・院生)
- 14:00 ③ イギリスにおけるOracy(オラシー)教育の現状(3)
ーイギリスでの活動の広がりとは日本での必要性ー
○矢野英子(大分大)
- 14:30 ④ ギターユニット活動における協働的な音楽表現の過程で学習者は何を学んだか
ー高等学校音楽科表現領域器楽分野の実践事例の分析ー
○横山真理(東海学大)
- 15:00 ⑤ 授業における「遊び」と「学び」
ー生活科授業実践の動向を手がかりにー
○竹内元(宮崎大)

自由研究8

(32番教室)

司会者：高橋英児(山梨大)
的場正美(東海学大)

- 13:00 ① アドボカシーを学び実践する主権者教育の授業の開発
ー選挙権を有さない中学生が政治参画する方法の獲得をめざしてー
○郡司日奈乃(千葉大学大学院・院生)
藤川大祐(千葉大)
- 13:30 ② 「生活世界の合理化」をめざす学校教育
○米井公介(広島県内小学校)
- 14:00 ③ 「文化的実践への参加」の理論に基づく教育実践
ー静岡大学教育学部附属静岡中学校の授業に着目してー
○山中左織(神戸大学大学院・研究生)
- 14:30 ④ 大学生のトランス・サイエンス問題に対する意識分析
ーソーシャル・ディスタンスの功罪に対する調査結果報告ー
○馬場智子(岩手大)
- 15:00 ⑤ 小学校教育課程における子どもたちの継続的・体験的活動
ー上越市立大町小学校で行われていた「学年の活動」を対象にしてー
○富澤美千子(横浜美術大)

10月1日(土) 16:00~18:30

シンポジウム

学校・学級で学ぶことの意味を問う

(1番教室)

コーディネーター・司会者

田上 哲 (九州大学)

熊井 将太 (山口大学)

提案者

田村 学 (國學院大学) 資質・能力の育成に向けた探究的・協働的な学び

藤本 和久 (慶應義塾大学) 再考を迫られる教室での学び

—教育課程変革期における学びの必然性と教師の働きかけ—

藤村 宣之 (東京大学) 探究と協同を通じた理解の深まり

—学級で共に学ぶことの意味を考える—

〈設定趣旨〉

学校・学級は子どもたちが共に探究しながら学ぶ場として長らくその機能を発揮してきた。ところが、コロナ禍に象徴されるこの数年の間に学校・学級のあり方は疑いのまなざしに強くさらされている。

例えば国策として推進されている、Edtechに基づいた「個別最適な学び」は、子どもたちが同じ教室に集まって同じ時間に同じことを学ぶという伝統的な学校の姿に再考を迫っている。言うまでも無く、文科省のGIGAスクール構想や経産省の「未来の教室」事業が提起する学校の姿が必ずしもよりよい学校の姿になるとは限らない。それらがもたらす公教育のスリム化や知識習得と探究との分断的理解など慎重に検討すべき点は多い。

しかし他方で、こうした警戒論を強めることで、これまでの学校・学級のあり方を無批判に肯定してしまっていないかという点には注意が必要である。子どもたちが一人一台タブレットを手にし、デジタルに回答を得ることが容易になった時代に、学級で共に探究的に学ぶことの意味はどのように見いだされるのか、改めて学びにとって学校・学級とはいかなるものであるのか。ともすれば、政策批判や理念的議論に終始しかねないこれらの問題について、教室や子どもの実際の姿から「教育方法的に」検討し、これからの学校・学級での学びのあり方についての展望を拓きたい。

インフォメーション

●会員総会

- 日 時 : 第一日(10月1日(土)) 11:30~12:20
- 会 場 : 共通教育講義棟 1 番教室 および「日本教育方法学会第58回山口大学大会オンライン会場」
- 主な議題 : 会務報告
2021年度決算
2023年度予算案
次期大会校

昼食・休憩前ですが、ぜひともご参集ください。

●会員懇親会

今年度は懇親会を開催いたしません。

●書籍販売について

学会事務局では、受付にて学会機関誌『教育方法』、研究紀要『教育方法学研究』、『大会発表要旨』の最新刊およびバックナンバーを、大会割引価格で販売いたします。この機会にぜひお求めください。

なお、『教育方法』最新刊(第51巻)は、本年度の学会費を納入された方には、大会前に郵送いたします。大会以降に学会費を納入された方には、随時お手元に郵送いたしております。

10月2日(日) 9:00~11:40

自由研究9

(メディア講義室)

司会者：上野正道(上智大学)
黒谷和志(北海道教育大学)

- 9:00 ① 思考の性向 (thinking disposition) 概念の再検討
—ジョン・デューイを手がかりとして—
○豊島まり絵(東京大学大学院・院生)
- 9:30 ② 初等教育のディスカッションにおける問題生成の過程に関する考察
—デューイの思考論を踏まえて—
○龐宇洋(東洋大学大学院・院生)
- 10:00 ③ 20世紀アメリカにおける企業教材の評価基準
—商業宣伝を抑制する試みの展開と課題—
○上杉嘉見(東京学芸大学)
- 10:30 ④ パウロ・フレイレの対話学習理論と実践
—謙虚さとは何か—
○荒巻恵子(帝京大学)

自由研究10

(2番教室)

司会者：木原俊行(大阪教育大学)
竹内元(宮崎大学)

- 9:00 ① 地域コーディネーターによる地域学校協働活動(コミュニティ・スクール)への参加尺度
—アーンスタインとハートの「参加のはしご」論を手掛かりに—
○早坂淳(長野大学)
- 9:30 ② 生徒は教科の探究学習において学校図書館の資源をどのように利用するのか
—生徒の居方に着目して—
○新居池津子(東京大学大学院・研究員)
- 10:00 ③ Instructional rounds の持続化に向けた指導主事のアクション
○廣瀬真琴(鹿児島大学), 宮橋小百合(和歌山大学)
森久佳(京都女子大学)
- 10:30 ④ 授業研究を「核」とする学校づくりに関する研究
—島小公開研究会におけるプログラムを中心に—
○狩野浩二(十文字学園女子大学)
- 11:00 ⑤ 校内研究における教師の拡張的学習の生成と変革的エージェンシーの形成
○山住勝広(関西大学), ○伊藤大輔(秋田県立大学)
○高橋栄介(上越市教育委員会), 上田真未(関西大学大学院・院生)
渡邊楓(関西大学大学院・院生)

10月2日(日) 9:00~11:40

自由研究11

(3番教室)

司会者：梅津正美(鳴門教育大学)
中野和光(美作大学)

- 9:00 ① 論争問題学習において子どもの政治的主体性はいかにして育ちうるか
—「権力の解釈学的モデル」に基づいて—
○馬場大樹(千葉経済大学)
- 9:30 ② 現代の課題解決の参考になる歴史を発見する力を育む授業の開発
—過去を参考に現代的課題の解決策を提案する雑誌記事執筆を通して—
○明石萌子(千葉大学大学院・院生)
- 10:00 ③ 社会状況の激変とPBLの変容
—PBLは進化したのか—
○広石英記(東京電機大学)
- 10:30 ④ 問題解決学習における解決の見通しの構成に関わる諸要因の関連構造
—中間項を用いた子どもの思考過程の再構成を通して—
○埜嵩志保(名古屋大学), ○丹下悠史(愛知東邦大学)
○水野正朗(東海学園大学), ○王瀟(名古屋大学大学院・院生)
○林エミ(名古屋大学大学院・院生), ○朱誉(名古屋大学大学院・院生)
○鈴木正幸(名古屋大学大学院・院生), ○孫銘悦(名古屋大学大学院・院生)
田中真帆(小田原短期大学), フェウザンアーダンヌサントラ(名古屋大学大学院・院生)
渡邊美紀(名古屋大学大学院・院生), 王萌(名古屋大学大学院・院生)
サイシュシャン(名古屋大学大学院・院生), 蔡鈺滢(名古屋大学大学院・院生)
西浦明倫(立命館大学), 小倉弘之(愛知学泉大学)
林文通(名古屋大学大学院・院生), 土屋花琳(名古屋大学大学院・院生)
廉賀(名古屋大学大学院・院生)

自由研究12

(26番教室)

司会者：松下佳代(京都大学)
亘理陽一(中京大学)

- 9:00 ① 構築主義的学習観に基づくコンピュータ教育に関する研究
—ミッチェル・レズニックのCreative Learning理論に着目して—
○宮島衣瑛(学習院大学大学院・院生)
- 9:30 ② 幼小連携カリキュラムとしてのプログラミング教育に対する幼稚園教員の認識と教育方法の摸索
○安谷元伸(四條畷学園短期大学)
- 10:00 ③ 教育におけるテクノロジー統合と関わる既発表モデル等と2020年以降の教育実践の関係考察
○小柳和喜雄(関西大学)
- 10:30 ④ 教育研究における「効果量」の利活用
—可視化された学習に向けて—
○田端健人(宮城教育大学)
- 11:00 ⑤ MIDIを活用した幼児の音楽表現の記録と分析
—演奏の変容と保育者の言葉に着目して—
○仲条幸一(つくば国際短期大学)

10月2日(日) 9:00~11:40

自由研究13

(27番教室)

司会者：三橋 謙一郎 (徳島文理大学)
渡辺 貴裕 (東京学芸大学)

- 9:00 ① 教師教育者の協働的メンタリング
ー熟達者と新任者の相互作用がもたらすものとは何かー
○守谷 富士彦 (桃山学院教育大学)
- 9:30 ② 若手教員の教職アイデンティティ形成過程についての一考察
ーナラティブ分析法を用いてー
○溝上 敦子 (西日本短期大学)
- 10:00 ③ 中国における教師教育カリキュラムに関する文献研究
ー生徒指導に注目してー
○張 夢竹 (千葉大学大学院・院生)
- 10:30 ④ 模擬授業の省察における教育実習経験の影響に関する実践研究
ー教育実習未経験学生との発言の比較を通してー
○梶井 大輔 (大谷大学)
- 11:00 ⑤ 教師と学校の自律的な学習と成長の支援
ー生成的な対話 (generative dialogue) に焦点をあててー
○黒田 友紀 (日本大学)

自由研究14

(28番教室)

司会者：鹿毛 雅治 (慶應義塾大学)
三村 和則 (沖縄国際大学)

- 9:00 ① 授業において繰り返し表出している教師のふるまい
ー教師の思いと子どもへの影響の観点からー
○藤 朱里 (筑波大学大学院・院生)
- 9:30 ② 総合的学習の授業設計における教師の思考
ー児童の概念獲得に向けた指導を中心にー
○細川 和仁 (秋田大学)
- 10:00 ③ 教師の一人称視点をういた授業分析
ー初任教員と熟練教員の視野に着目してー
○谷口 正明 (名城大学), 後藤 明史 (名古屋大学)
平山 勉 (名城大学), 平山 幸代 (大府市立大府西中学校)
中山 真樹 (高槻市立桃園小学校)
- 10:30 ④ 教師視線に基づく授業認知に関する事例研究
ー小学校理科授業ー
○浅田 匡 (早稲田大学)
- 11:00 ⑤ 教師視点映像記録を活用した授業者の授業改善Ⅱ
ー道徳とプログラミングの事例分析に基づいてー
○平山 勉 (名城大学), 中山 真樹 (高槻市立桃園小学校)
谷口 正明 (名城大学), ○平山 幸代 (大府市立大府西中学校)
○後藤 明史 (名古屋大学), 竹内 英人 (名城大学)

10月2日(日) 9:00~11:40

自由研究15

(31番教室)

司会者：伊藤実歩子(立教大学)
久田敏彦(大阪青山大学)

- 9:00 ① フレーベルの「遊び」理解とその教育学的意義に関する研究
○金原 遼(広島大学大学院・院生)
- 9:30 ② 教えのアート教授学(Lehrkustdidaktik)における「PISA後」体験
ー〈アート〉と〈テクノロジー〉の交錯点ー
○田中 怜(育英大学)
- 10:00 ③ W.クラフキのカリキュラム開発実践とその論理
ーマールブルク・基礎学校プロジェクトに注目してー
○市川和也(大阪成蹊大学)
- 10:30 ④ 教授学と方法論
ー方法の対象構成的な意味ー
○牛田伸一(創価大学)
- 11:00 ⑤ ドイツ政治教育の授業における分節構造と生徒発言の解釈に関する研究
ーNRW ギムナジウムにおける2003年の人権の授業事例を中心にー
○的場正美(東海学園大学)

自由研究16

(32番教室)

司会者：遠藤貴広(福井大学)
福田敦志(大阪教育大学)

- 9:00 ① 学習者の多様性を尊重したエージェンシーを発揮させる授業デザインの研究
○小牧 瞳(千葉大学大学院・院生)
- 9:30 ② 教育実践における個人の尊厳に関する一考察
ー教育的ニーズの多様性に焦点を当ててー
○櫻井 瀬里奈(安田女子大学・院生)
- 10:00 ③ 高校生の歴史授業の意味づけにアイデンティティが与える影響
ー「アイデンティティの軌跡」に着目してー
○星 瑞希(北海道教育大学)
- 10:30 ④ 多様な文化的背景の子どもたちのいる教室における授業のデザイン
ー子どもにとってのレリバンスという観点からー
○金井香里(武蔵大学)

10月2日(日) 13:00~15:15

課題研究Ⅲ

幼児期の遊びから児童期の学びへの接続を問う
— 架け橋期カリキュラムと教育方法 —

(1 番教室)

コーディネーター・司会者

秋田 喜代美 (学習院大学)

川地 亜弥子 (神戸大学)

提案者

浅井 幸子 (東京大学) 幼児教育と小学校教育の出会い

—「幼年教育」という思想—

岸野 麻衣 (福井大学) 子どもの経験と思考を基盤に協働して生活と学びをつくる

— 発達の連続性を保障していくための転換 —

木下 光二 (鳴門教育大学) 幼小接続における学びの可視化と教育課程の具現化

— 実践事例をもとに遊びと学習のつながりを考える —

〈設定趣旨〉

幼児期の教育と小学校以上の教育の連続性の保障としての接続は、わが国では120年以上前から繰り返し議論検討されてきた教育方法をめぐる論題である。1981(昭和46)年に中央教育審議会が提出した46答申においても、4、5歳児の幼児教育から小学校低学年までの教育の連続性が議論され、その後も研究開発学校での開発やスタートカリキュラムをはじめ多様な試みが繰り返されてきている。しかしそれが必ずしも全国的に具現化されているとはいえない。そして本年4月には、文部科学省中央教育審議会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」から「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版)」が提示され、5歳4月から小学校1年生3月までの2年間を架け橋期と名づけ、全国的に架け橋期カリキュラムの開発や体制づくりが開始されることになった。幼児期の遊びと小学校以降の授業における内容や方法をどのように接続することが、0歳から18歳までのゆたかな発達を連続的に保障することにつながるだろうか。本課題研究では、幼児期の教育と小学校低学年教育の連続性の研究や研修に関与してきた3名の方からその教育方法やカリキュラム内容に関して提案いただき議論を深めていく予定である。

10月2日(日) 13:00~15:15

課題研究Ⅳ

教員養成において教育方法学を学ぶ意義

— 教職課程コアカリキュラムと ICT 事項科目への対応をめぐって —

(2 番教室)

コーディネーター

柴田好章(名古屋大学)

樋口直宏(筑波大学)

司会者

柴田好章(名古屋大学)

提案者

赤沢早人(奈良教育大学) 奈良教育大学「教育方法論」の授業展開

—「クラシックな授業」と「ICTを活用した授業」のベストミックスの探求—

橋高佳恵(横浜国立大学) ICT 事項科目をめぐる対応と展望

—横浜国大の事例を踏まえて—

樋口直宏(筑波大学) 「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」の新設と課題

指定討論者

深澤広明(安田女子大学)

〈設定趣旨〉

近年、教職課程が大きく動いている。教育職員免許法の改正、教職課程コアカリキュラムに始まり、令和4年度からは「ICT 事項科目」と呼ばれる「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」が1単位必修として導入された。従来2単位で開講していた「教育の方法及び技術（情報機器及び教材の活用を含む。）」の時間数の中で、1単位分の ICT 事項科目のコアカリキュラムの内容を確保している大学も少なくない。この場合、ICT 活用以外の「教育の方法及び技術」に割り当てられる時間数は減少することになる。ICT を用いた授業実践力を教職課程で身につけることは必要であるが、その比重が高まることにより、ICT 以外の教育方法を学ぶ機会の減少が懸念される。一方、大学によっては教職課程の総単位数を増やして対応しているケースもある。本課題研究では、ICT 事項科目への各大学の対応をふまえながら、教員養成に求められる「教育の方法及び技術」「情報通信技術を活用した教育の理論及び方法」のあり方を検討し、その学問的背景となる教育方法学の理論的知見や実践的示唆を学ぶ意義を考察する。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル①

教師と子どもから見た授業スタンダード — 定量的研究の知見から —

(11番教室)

企画者

赤木和重(神戸大学)

提案者

澤田俊也(大阪工業大学)

前岡良汰(一般社団法人ほどきのとっと)

亘理陽一(中京大学)

〈設定趣旨〉

近年、多くの学校で、授業スタンダードが取り入れられるようになってきている。授業スタンダードは、授業方法に直接的に影響を与えるものであり、本学会においても、無視できない重要なトピックである。授業スタンダードは、学力テストの成績向上に寄与するという肯定的意見もあれば、一方で、授業の画一化を招くという批判も出されている。しかし、学術的な知見の蓄積が十分ではないこともあって、授業スタンダードの意義や課題について、十分な議論は行われていない。そのため、授業スタンダードの定義や特徴、実態が共有できないまま、議論がかみあわない現状がある。

そこで、本ラウンドテーブルでは、授業スタンダードについて定量的な知見を蓄積している研究者を招いて、授業スタンダードの検討を行う。特に、教師や子どもがどのように授業スタンダードをとらえているのかに焦点を当てる。教師や子どもにおける授業スタンダードの認識に焦点を当てることは、日常の教室のなかでの教師の授業方法にも直結する問題である。

当日の話題提供者として、お二人にお願いした。1人は、澤田俊也先生である。澤田先生は、教育行政学の視点から、授業スタンダードに関する研究を多数蓄積されている。そのなかでも、2021年に「教育学研究」に掲載された論文では、授業スタンダードを受容する教師の変数について検討している。

もう1人の話題提供者として、前岡良汰先生にお願いした。前岡先生は、小学生児童を対象に、主に学習規律に注目した授業スタンダードについての認識を、質問紙調査によって尋ねるなどの研究を行っておられる。前岡先生の研究からは、学年があがるにつれて、授業スタンダードへの反対が増加すること、および、回答には、個人の権利意識の発達が関係していることが明らかにされている。

当日は、澤田先生、前岡先生のご発表に加えて、指定討論的な役割として、亘理先生から、コメントをいただく。そのうえで、フロアとともに、議論したいと考えている。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル②

ニュー・マテリアリズムによる教育研究の可能性を探る

(22番教室)

企画者

楠見友輔 (日本学術振興会特別研究員)

提案者

桐山瞭子 (お茶の水女子大学附属中学校)

楠見友輔 (日本学術振興会特別研究員)

中島義和 (広島女学院大学)

藤枝真奈 (お茶の水女子大学附属小学校)

〈設定趣旨〉

近年、教育研究において、ニュー・マテリアリズムの考えを応用した授業研究の試みが見られるようになってきている。伝統的な社会科学研究は、人間／非人間，精神／身体，文化／自然，言説／物質という二元論を基盤としてきた。二元論に基づく思考は、理性的な人間に近づく単線的で規範的な学習の筋道や、授業を捉えるための焦点として人間の相互行為のみに注目する視点を暗黙的に肯定している。これに対して、ニュー・マテリアリズムは、出来事に影響を及ぼす原因となる力を主体性 (agency) と捉えることによって、伝統的な社会科学研究において人間のみが有すると考えられてきた主体性を非人間にまで拡張して考える。このような新しい思考の導入は、規範から外れていく変化を肯定的に捉えること、授業の計画や実践における物質の様々な可能性を考慮すること、授業の中で生じる予想外で創発的な瞬間を捉えることなどにおいて、旧来の教育実践や研究を問い直す可能性を有している。ただし、このような視点は国際的にも新しく、様々な教育実践を対象とした分析を通して、これから教育研究におけるニュー・マテリアリズムの意義を広く議論していくことが求められる。教育方法学会には、授業研究を専門とする研究者が多く所属し、学会紀要において授業研究は重要な位置を占めている。しかし、現在の授業研究は、人間同士の相互行為や教室談話に焦点が当てられることが殆どであり、物の主体性は十分に考慮されていない。企画者は、『教育方法学研究』第46巻に「ニュー・マテリアリズムによる教育研究の可能性」を掲載し、提案者を含む研究者、教師、学生らと、「ニュー・マテリアリズムによる教育研究ワークショップ」をオンライン開催してきた。本企画では、2名の教師の授業実践を物質と人間の対称性や、物の主体性に注目して分析することを通して、参加者とともに教育実践や研究の新しい可能性についてオープンエンドに議論したい。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル③

「研究方法論」の視角から教育方法学のディシプリンを問う
— 学問的自律と孤立の〈あいだ〉 —

(23番教室)

企画者

田 中 怜 (育 英 大 学)

宮 本 勇 一 (広 島 大 学)

提案者

埜 嵩 志 保 (名 古 屋 大 学)

森 本 和 寿 (大 阪 教 育 大 学)

〈設定趣旨〉

「教育方法学には『親学問』がない」と言われることがある。他の隣接領域と比較したとき、教育方法学では拠り所となる理論的体系やメソドロジーが希薄もしくは十分に自覚されていないというわけである。とりわけ研究方法の組み立てと説得的な提示は、ディシプリンに参加してまだ日が浅く、かつ学会誌への論文投稿・掲載を目指す若手研究者にとってまさに刻下の急務である。こうした問題意識から、本ラウンドテーブルでは、若手研究者の目線で研究方法論を議論のフロントラインに引き込みたい。

教育方法学研究における研究アプローチは、対象領域の広がりに対応して多様に発展しており、このことが教育の理論と実践の総合的な追究を可能にしてきたと考えられる。その傾向性や課題は、既に学会50周年の節目に『教育方法学研究ハンドブック』（学文社）の中で自己省察が試みられている（池野 2014, 吉田 2014）。またそれは、他分野ではネガティブな意味で耳目を引くこともある（小針 / 井上 2021）。「親学問」なき教育方法学にとって、研究方法の問いはディシプリンの輪郭線をめぐる問題系に接合しうる。教育方法学（者）のアイデンティティや他分野との区分線はどこに見出されうるのか、そこで産出される知とはいかなるものか、さらにはそうした知が他分野においてどう活用されているのか（もしくは、されていないのか）といった広漠な問いがここに立ち上がる。

当日は、まず企画者より『ハンドブック』以降の教育方法学研究における研究方法の傾向や展望について見通しを示したのち、各提案者がコメントを交えて研究方法論の視角から教育方法学のディシプリンに関して提案を投げかける。ディシプリンへの問いは自己（われわれ）と他者（彼・彼女ら）の線引きにかかわる。行き着く先は学問的自律かそれとも孤立なのか——硬軟両様に議論を重ねることで、上記の問題群に呼応する「答え」というよりも、別様な「問い」の立て方を得たい。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル④

幼小接続期における探究プロジェクトのカリキュラムと評価

— 山梨学院幼稚園・山梨学院小学校の国際バカロレア (PYP) 実践を手がかりとして —

(24番教室)

企画者

岡花 祈一郎 (琉球大学)

提案者

山内 紀幸 (神戸女子大学)

田村 優子 (山梨学院幼稚園)

瀬端 淳一郎 (山梨学院小学校)

指定討論

川地 亜弥子 (神戸大学)

〈設定趣旨〉

令和4年4月「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」から「幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き (初版)」が提示された。これを受け本学会第58回大会でも「架け橋プログラム」に関して課題研究が設定されている。このように、現在、就学前教育から小学校への接続は、教育方法学的にも大きなイシューの一つである。

そこで、本ラウンドテーブル (以下 RT) では、山梨学院幼稚園と小学校で行われた国際バカロレア (PYP) に着目して、幼小接続期のカリキュラムとその評価について議論したい。これまで国際バカロレアについては高等教育に焦点をあてたものが多く、初等教育プログラムについては、十分に議論されているとはいいがたい。今回は、我が国初めての PYP 認定校であり、継続的に実験的な取組をされてきた山梨学院幼小の実践から、プロジェクト活動がどのような学びと経験となり、それをどう評価するのかという点について焦点化して議論したい。

とりわけ、今回は、カリキュラムとその評価に注目する。関係者からは「幼児期の経験が、どう教科の知識・技能に結びついているのかわからない」といった声も多い。一般的に、幼小接続カリキュラムにおいては、プロジェクト対教科主義に陥りがちであるし、他方で、その評価もプロセス評価対アウトカム評価といった対立軸で語られがちである。こういった二元論的な対立を越えた接続の可能性について、山梨学院幼小の探究プロジェクトを中心としたカリキュラムと評価の実践をもとに探りたい。

今回の RT では、山梨学院幼小の実践について、山内紀幸氏、田村優子氏、瀬端淳一郎氏に報告をいただく。そして、教育評価論がご専門で、特に綴り方教育のご研究をされてきた川地亜弥子氏から幼小期におけるカリキュラムと評価の在り方についてコメントをいただく予定である。

なお、本 RT は JSPS 科研費 22H00990 の成果報告の一部である。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル⑤

授業研究会における「学びの事実の省察」の検討

(25番教室)

企画者

森田 智幸 (山形大学)

提案者

永島 孝嗣 (立教大学)

津久井 純 (国際開発センター)

金田 裕子 (宮城教育大学)

齋藤 智哉 (國學院大學)

〈設定趣旨〉

教師の専門家像のパラダイムシフトに伴い、様々な授業研究の改革が実践されてきた。鍵概念は「省察 reflection」である。授業研究の対象は、板書や発問、指導案など観察可能な行動から、学びの事実の省察へと展開している。同時に、学びの事実の省察を対象とした授業研究については、近年、省察を対象としたとしても既存の枠組みを強化するにとどまることなど、その困難も多く指摘されている(金田 2021, 永島ほか 2021)。

省察を対象とした授業研究の改革の火付け役となったのは、1980年代のドナルド・ショーンによる「反省的实践家 reflective practitioner」としての専門家像の提示にあった。その主眼の一つは、確かに省察 reflection にあった。それと同時に、「行為の中の省察」や技術合理性批判の議論の展開を繙くと、専門家の実践の対人関係的な側面の転換 (Schön 1974, 佐藤 1996, 三品 2017)、日常的認知との連続性の回復 (Schön 1987, 佐伯 2018) が大きな関心事であった。こうした関心事から描かれる事例には、衝突や葛藤の経験が多く描かれており、省察的实践の展開、それによる専門家像の転換が様々な困難を経て展開することを示唆しているのではないかと。

こうした点を踏まえるならば、学びの事実の省察を対象とした授業研究の改革を今後も持続的に展開するためにも、そこに参加した経験とそこから見出せる知見を公開し、交流し、共有する場が必要である。本ラウンドテーブルでは、新しいスタイルを模索している校内授業研究会(永島)、パレスチナの授業研究会(津久井)、教師による研究サークルをきっかけとした新人教師の学び(森田)の3つの事例報告とそれに基づくコメント(金田)及びフロアの参加者の方々との議論を通して、学びの事実の省察を対象とした授業研究の現在と今後の展望を探りたい。

10月2日(日) 15:30~17:00

ラウンドテーブル⑥

授業研究というテーゼ (1)

— 教育方法学は「授業」とどう向き合うか —

(26番教室)

企画者

吉田成章(広島大学)

石井英真(京都大学)

提案者

安藤和久(広島大学大学院/日本学術振興会特別研究員)

石田智敬(京都大学大学院/日本学術振興会特別研究員)

〈設定趣旨〉

日本教育方法学会は、「授業研究」を主たる活動の場としてきた全国授業研究協議会等を前身として設立が発意され、2022年で60年の節目を迎える(学会の結成は1964年)。本学会では、「授業研究」は一貫した研究の対象であり、テーマであり、実践的探究の場であった。『日本の授業研究 上下巻』(学文社、2009年)および“Lesson Study in Japan”(Keisuisha, 2011)の刊行は、世界的に展開される Lesson Study の動向にいち早く応答し、その特質と意義を打ち出した著作である。また、シンポジウム、課題研究、自由研究発表、ワークショップやラウンドテーブル、さらには大会前日企画といった各部会・企画においても、「授業研究」は常に重要なテーマの一つとして設定されてきた。

他方で、「授業研究」は教育方法学研究のみが対象とする研究フィールドではない。歴史研究、比較研究、社会学的研究、カリキュラム研究、心理学研究、教科教育学研究、教師教育研究などの多様な研究が交錯するフィールドである「授業研究」に、教育方法学がいかに向き合いうるのかという問いは、一つのテーゼとなりうるであろう。すなわち、日本教育方法学会においてこそ議論しうる授業研究というテーマとは何であるのか、あるいは授業研究について議論することによってこそ浮き彫りになる教育方法学研究の特質とはどこにあるのか——。こうした問いを、「授業研究というテーゼ」というテーマに込めて連続シリーズとして企画するのが、本ラウンドテーブルである。

本ラウンドテーブルでは、授業を事前に参観した上で、その授業をいかに記録・観察・分析・解釈しうるのかを巡って、2名の話題提供を受けて、参加者とともに議論を行いたい。対象とする授業は、小学校5年生算数「割合」の授業である。

本ラウンドテーブルでは、事前に参加登録をくださった方に、授業関連資料(授業ビデオ・指導案・教科書教材・トランスクリプト・実践記録)を提供する。事前の授業ビデオの視聴はなくともラウンドテーブルには参加していただけるが、ラウンドテーブルの時間内で授業ビデオを視聴する時間は設けずに、授業の概要とその分析の報告を踏まえて、参加者とともに議論を進めていきたい。参加を希望する方は、以下の URL より必要情報をご入力いただいた上で、本ラウンドテーブルにご参加いただきたい。

参加申込フォーム：https://docs.google.com/forms/d/1gMcnO16YNZFXJPd8piMEkmvn5ZiENUXkIgs_CaSanAl/edit

10月2日(日) 15:30~17:00

ワークショップ①

教師視点映像記録を活用した授業研究方法3

(3番教室)

企画者

平山 勉 (名城大学)

提案者等

後藤 明史 (名古屋大学)

谷口 正明 (名城大学)

協力者

中山 真樹 (高槻市立桃園小学校)

平山 幸代 (大府市立大府西中学校)

〈設定趣旨〉

「映像記録の特性を生かした授業研究の方法」は、本学会でも多くの積み上げがある。

本ワークショップでは、第55回、第57回大会に引き続き、教師視点の映像記録を活用した授業研究方法について、「同一の学習指導案で初任者教師と熟練教師が実施した教師視点映像記録の比較試聴（演習）」を中心に、これまでの分析とそれらを教職授業の提示教材として適用した事例を紹介する。

アイトラッキングの活用に関しては、海外では最近、アイトラッキングカメラを使った教師の視点の研究が始まりつつある。例えば、Wolff (2016) らによると、教室内の生徒の問題行動を記録したビデオを熟練教師と初任者教師に見せて、彼らの注視点の分布がどの程度違うのかを分析している。そして、熟練教師の注視点の方が、初任者の注視点よりもばらつきが少ないことを見出している。

企画者らは、授業実施者である教師の一人称視点の映像と注視点を記録し、これ自体を分析の対象としている。これらの試みを紹介し参加者とともにその可能性を議論したい。

当日、以下の流れを予定している。

- 1) 参加者のアイスブレイキング
- 2) アイトラッキングカメラ、教師視点映像記録の説明
- 3) 同一の学習指導案で初任者教員と熟練教員が実施した教師視点映像記録の比較試聴
- 4) 3) の分析事例、教職授業への適用事例紹介
- 5) 情報交換

日本教育方法学会刊行書籍

教育方法13.	いま授業で何が問われているか	1 9 8 3	(2,400円)
教育方法14.	子どもの人間的自立と授業実践	1 9 8 5	(2,800円)
教育方法16.	個性の開発と教師の力量	1 9 8 7	(2,400円)
教育方法17.	教育方法を問い直す	1 9 8 8	(2,900円)
教育方法18.	新教育課程と人間的感性の育成	1 9 8 9	(1,940円)
教育方法19.	知育・徳育の構想と生活科の指導	1 9 9 0	(1,709円)
教育方法20.	学校文化の創造と教育技術の課題	1 9 9 1	(1,709円)
教育方法22.	いま、授業成立の原則を問う	1 9 9 3	(1,806円)
教育方法23.	新しい学力観と教育実践	1 9 9 4	(1,806円)
教育方法25.	戦後50年、いま学校を問い直す	1 9 9 6	(1,903円)
教育方法26.	新しい学校像と教育改革	1 9 9 7	(1,800円)
教育方法27.	新しい学校・学級づくりと授業改革	1 9 9 8	(1,960円)
教育方法28.	教育課程・方法の改革—新学習指導要領の教育方法的検討—	1 9 9 9	(1,860円)

(価格は本体価格)

〒114-0023

東京都北区滝野川7-46-1

明治図書

TEL.(編)03-5907-6620

TEL.(営)048-256-2337

『教育方法』は、大会当日、会場にて大会割引価格にて販売いたします。

この機会に多数の方々のご購入をお願いいたします。

『教育方法29』より、図書文化から出版されることになりました。

教育方法29.	総合的学習と教科の基礎・基本	2 0 0 0	(1,800円)
教育方法30.	学力観の再検討と授業改革	2 0 0 1	(1,800円)
教育方法31.	子ども参加の学校と授業改革	2 0 0 2	(1,900円)
教育方法32.	新しい学びと知の創造	2 0 0 3	(1,900円)
教育方法33.	確かな学力と指導法の探求	2 0 0 4	(1,900円)
教育方法34.	現代的教育課程改革と授業論の探求	2 0 0 5	(1,900円)
教育方法35.	学習意欲を高める授業—どのような学力を形成するか—	2 0 0 6	(2,000円)
教育方法36.	—PISAを契機とした現代リテラシー教育の探究—	2 0 0 7	(2,000円)
教育方法37.	現代カリキュラム研究と教育方法学 —新学習指導要領・PISA型学力を問う—	2 0 0 8	(2,000円)
教育方法38.	言語の力を育てる教育方法	2 0 0 9	(2,000円)
教育方法39.	子どもの生活現実にとりくむ教育方法	2 0 1 0	(2,000円)
教育方法40.	デジタルメディア時代の教育方法	2 0 1 1	(2,000円)
教育方法41.	東日本大震災からの復興と教育方法：防災教育と原発問題	2 0 1 2	(2,000円)
教育方法42.	教師の専門的・力量と教育実践の課題	2 0 1 3	(2,000円)
教育方法43.	授業研究と校内研修—教師の成長と学校づくりのために—	2 0 1 4	(2,000円)
教育方法44.	教育のグローバル化と道徳の「特別の教科」化	2 0 1 5	(2,000円)
教育方法45.	アクティブ・ラーニングの教育方法的検討	2 0 1 6	(2,300円)
教育方法46.	学習指導要領の改訂に関する教育方法的検討 —「資質・能力」と「教科の本質」をめぐって	2 0 1 7	(2,200円)
教育方法47.	教育実践の継承と教育方法学の課題 —教育実践研究のあり方を展望する—	2 0 1 8	(2,000円)
教育方法48.	中等教育の課題に教育方法学はどう取り組むか	2 0 1 9	(2,000円)
教育方法49.	公教育としての学校を問い直す —コロナ禍のオンライン教育・貧困・関係性をまなごす—	2 0 2 0	(2,000円)
教育方法50.	パンデミック禍の学びと教育実践 —学校の困難と変容を検討する—	2 0 2 1	(2,300円)

(価格は本体価格)

最新刊・教育方法51.

教師の自律性と教育方法 —教育のデジタル化・協働的な学び・個別最適な学びを解剖する—

〈内 容〉

- I 今日の教育改革と教師の自律性
- II 教師の自律性を軸とした授業研究
- III 教育方法学の研究動向

〒112-0012

東京都文京区大塚1-4-15

図書文化

TEL. 03-3943-2516